

VI 中期経営目標

本計画では、前章に掲載した事業の実施により、本計画が終了する平成31年度までに到達すべき22項目の「中期経営目標」を設定し、その達成に向けて取り組んでいきます。

なお、基本計画では「長期経営目標」として平成31年度の目標が掲載されていますが、現状を踏まえて目標値の修正や項目の追加・削除を行っています。

目指すべき将来像	実現方策	指標	指標の説明	望ましい変化	平成26年度 未見込み	平成31年度 目標	(参考) 基本計画に おける目標
1 強く 安心して 水道(12項目) 次ページへ 続く	(1) 災害に強い施設・システムの整備	耐震性を有する管路の割合 <small>(耐震性を有する管路延長/管路総延長) × 100</small>	導水・送水・配水管の耐震化の進捗を表す指標です。	↑	86.1%	87%	87%
		災害拠点病院などへの管路の耐震化箇所数	災害拠点病院などへ通じる管路の耐震化の進捗を表す指標です。 ※対象施設の拡大に伴い、「耐震化箇所数」に変更しました。	↑	21箇所	30箇所以上 上方修正!!	27箇所 ※基本計画では「耐震化率」
		配水池耐震施設率 (新) <small>【水道事業ガイドライン*2209】 (耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量) × 100</small>	配水池の耐震化の進捗を表す指標です。	↑	19%	50%	—
		公道内埋設の鉛製給水管残存率 <small>(公道内埋設の鉛製給水管残存件数/給水管件数) × 100</small>	鉛製給水管解消事業の進捗を表す指標です。 ※漏水発生時の影響などを考慮し、「公道内」の解消を優先的に進めることとしました。	↓	4.2%	0%	0% ※基本計画では「道路内」埋設
		有効率 <small>(有効水量/年間総配水量) × 100</small>	浄水場からお客さまの元まで配水された水道水の割合です。	↑	96.5%	97% 上方修正!!	96%
	(2) 災害対応力の強化	災害時給水施設の整備箇所数	大規模災害時などに給水拠点となる災害時給水施設の整備事業の進捗を表す指標です。	↑	94箇所	180箇所以上 上方修正!!	85箇所
		主要浄水場における長期停電対策実施率 (新) <small>(主要4浄水場における非常用自家発電装置の燃料タンク増強完了数/4) × 100</small>	本市の主要4浄水場(茂庭・国見・中原・福岡)における、長期停電に備えた非常用自家発電装置の燃料タンク増強の進捗を表す指標です。	↑	25%	100%	—
		給水車用注水補給設備の整備箇所数 (新)	大規模地震などの災害時に給水車に効率良く水を補給する設備の整備事業の進捗を表す指標です。	↑	3箇所	5箇所	—
		地域・他都市などとの防災訓練実施回数 (新)	地域主催の防災訓練、他都市や関係団体との合同防災訓練、災害時給水栓の操作説明会などの実施回数です。	↑	H22~26年度合計で62回	H27~31年度合計で150回	—
	(3) 水質管理の徹底	主要浄水場における高度浄水処理施設導入率 (新) <small>(主要4浄水場における粉末活性炭注入設備設置完了数/4) × 100</small>	本市の主要4浄水場における、粉末活性炭注入設備導入の進捗を表す指標です。	↑	50%	100%	—
		かび臭からみたおいしい水達成率(2-MIB対象) <small>【1-(2-MIB最大濃度-局水質目標値)/水質基準値】 × 100 ※局水質目標値は2ng/L以下。</small>	かび臭に関する水質目標値の達成度を表す指標です。 ※本市の実情に即した「おいしい水達成率」を算出するため、2-MIBのみを対象とした計算式に変更しました。	↑	100%	100%	80%以上 ※基本計画ではシェオスミンも対象

* 水道事業ガイドライン…公益社団法人日本水道協会が平成17年1月に制定した規格で、水道事業全体を網羅した6つの分野(安心・安定・持続・環境・管理・国際)について、137項目の業務指標を設定したものの。



目指すべき将来像	実現方策	指標	指標の説明	望ましい変化	平成26年度 未見込み	平成31年度 目標	(参考) 基本計画に おける目標
続き		総トリハロメタン濃度からみた安全で良質な水達成率 新	自然由来の有機物と消毒用塩素とが反応して生成されるトリハロメタンに関する水質目標値の達成度を表す指標です。 ※本市では、水道法の水質基準値（0.1mg/L以下）よりも更に厳しい目標値（0.04mg/L以下）を設定しています。	↑	100%	100%	—
		（毎月検査箇所における局水質目標値達成数/年間検査総数）×100 ※局水質目標値は0.04mg/L以下。					
2 エコで持続可能な水道【10項目】	(1) 環境に配慮した事業の推進	再生可能エネルギー発電量	太陽光発電や小水力発電などの再生可能エネルギーの導入状況を表す指標です。 ※導入事例の増加に伴い、「発電量」に変更しました。	↑	3万 kWh/年	100万 kWh/年 上方修正!!	再生可能エネルギーの導入推進
		配水量 1 m³当たり電力消費量	省エネルギー型機器への切り替えなどによる電力消費量削減の進捗を表す指標です。 【水道事業ガイドライン4001】 電力消費量/年間総配水量	↓	0.15 kWh/m ³	20年度比減少 (0.15kWh/m ³ 未満)	20年度比減少
		次世代自動車等の導入台数 新	公用車の更新時における次世代自動車等の導入台数で、排気ガスや二酸化炭素の排出削減の進捗を表す指標です。	↑	22台	50台以上	—
		浄水発生土の有効利用率	浄水発生土の有効利用の割合を表す指標です。 【水道事業ガイドライン4004】 (有効利用土量/浄水発生土量) × 100	↑	87.5%	100% 上方修正!!	90%
	(2) お客さま本位の事業の推進	コールセンター応答率 新	水道局コールセンターへの入電数に対し、オペレーターが電話を取り対応した数/コールセンターへの入電数) × 100	↑	H22~26年度平均で70%	85%以上	—
		水道記念館の年間来館者数 新	水道記念館（青下水源地内）の年間の来館者数で、お客さまへの情報提供の進捗を表す指標です。	↑	H22~26年度平均で7,045人	10,000人以上	—
		各種イベント参加者の満足度 新	水道フェアなど水道事業に関するイベント参加者の満足度を表す指標です。 （各種イベント等のアンケートで「満足」と回答した方の数/アンケート回答数）×100	↑	80%	90%以上	—
	(3) 経営マネジメントの推進	有収率 新	浄水場からお客さまの元まで配水された水道水のうち、水道局の収入となった水量の割合です。 【水道事業ガイドライン3018】 (有収水量/年間総配水量) × 100	↑	94.1%	94.6%	—
		給水収益に対する企業債残高	企業債残高からみた財務状況の安全性や、企業債残高が経営に与える影響度を表す指標です。	↓	3倍	3倍以内	3倍
		経常収支比率 新	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上の場合は、良好な経営状態であるといえます。 【水道事業ガイドライン3002】 [(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)] × 100	—	106.8%	100%以上	—